



日本地雷処理を支援する会

JMAS だより

2010年5月

世界中の紛争跡地には今なお膨大な数の地雷・不発弾が残されたままであり、人々が厳しい環境の中で生活をしています。JMASは、専門的技術を有する自衛隊出身者が中核となって設立し、世界各地で地雷・不発弾処理プロジェクトを行っている団体です。

'09カンボジア「安全な村づくりプロジェクト」終了



完成した“KOMATSU Safety Village Primary School”

昨年4月からカンボジア・バタンバン州において実施中であった安全な村づくりプロジェクト(SVC)が3月に無事終了しました。

対人地雷除去機で60ヘクタールの地雷を除去した後、3キロの道路、排水設備、井戸、農業用溜池などを建設するとともに小学校を新築しました。

地雷原が農地に生まれ変わりました。子供たちはこれから雨季であっても通行が可能な道を、地雷原を迂回することなく通学出来るようになりました。



住民への引渡し式テープカット



小学校の校庭で行われた引渡し式と出席した地元村民



診療所につくられた井戸



安全を取り戻した広大な農地と3kmの直線道路



農業用溜池

「バタンバン州における住民参加型地雷処理(CBD)の 補充地雷処理隊員の選考」

総務主任 佐藤 佳子

2010年2月9日(火)バタンバン州カムリエン郡タサエン・コミュニティの小学校敷地において、今年度の補充地雷処理隊員の最終選考作業が行われました。1月からコミュニティ内の6村において村民に広く呼びかけ、応募者を募りました。その結果、6村から67名(内女性23名)の応募がありました。

住民参加型の地雷処理は、その村に居住する村民で、未亡人、孤児または家族に被害者がおり貧困であるなど、様々な理由でもっとも貧しい村民を雇用して、CMACの基礎訓練を受けたあと、自らの村の安全と復興のために地雷処理を行うというプロジェクトです。



委員長のお話

まず、選考委員長であるCMACのチャン・サンバット氏が、村民を前に、今回の選抜に関するお話をしました。
『私たちはまた今年もここタサエンにやってきました。車に乗ってプノンペンから移動して、タサエンに着いたとき、私は、JMASを通して日本の国民の皆さんが支援して下さった道路を通りました。道路を過ぎると、村にゴミ箱が設置してあるのを見ました。これも、日本の皆さんからの支援なのだと聞きました。今日、ここに集まった村人の皆さん、クメール人の皆さん！日本の人たちが私たちの国のためにここまで心を砕いて、地雷処理だけでなく、ゴミのことまで気にして下さっているのに、私たちクメール人

がなにもしない、できないのだったら、それはなんとも恥ずかしいことではないでしょうか？私たちが、やらねばならないのです。私たちが、頑張らなくてはならないのです。皆さん、自分の村の復興のために、頑張ってください。」「自立」、本当の意味の「自分たちの復興」を成し得るために、村人が地雷を処理し、村の再生をしてゆく、今日の選考はそこに携わるための入り口の手前一步です。村でもっとも貧しく社会の底辺にいた人々が、社会に貢献する村民となる、そのチャレンジの扉の前に立っています。』

選考では、筆記試験(文字の読み書きができない人は筆記試験なし)、面接、身体検査が行われ、特に、身体検査では、地雷探知機の金属反応音が聞き取れる聴力、地雷探知作業に支障のない身体機能であるかどうかをチェックします。また、面接では、家庭の事情、人生の困難さに触れることもあり、中には、話し出してから自分の人生の苦しさで涙を流す村民がありました。「自分は学がないので苦労している。自分の子供たちにはせめて安全な土地で、十分な教育を受けさせて、母さんみたいに愚かな人生を歩まないようにしてあげたい。だから、人生を賭けてみるんです」と強い声で語る女性もありました。

小学校の教室で汗だくの選考作業。結果、各村から15名(内女性10名)が最終合格者に選考されました。また予備の補欠順位も10名まで決定されました。



筆記試験



面接



選抜メンバーのミーティング

2月24日から合格した15名の村民がCMACのトレーニングセンターにおいて、地雷処理の基礎コースの訓練を開始する予定です。

カンボジア・スタッフ紹介

プノンペン事務所



渡邊統括代表(E)



佐藤総務主任



新井経理主任

カンダール州



西城専門家(i)

不発弾処理 コンボンチャム州



古賀専門家(Ord)

コンボンスプー州



丹田専門家(Ord)

地雷処理

バタンバン州

安全な村づくりプロジェクト(SVC)



庄司専門家(E)



亀井 SVC 計画・管理専門家



高木専門家(E)

住民参加型地雷処理(CBD)



高山専門家(E)



高田専門家(E)

ラオス報告

南部アッタプー県で新規事業開始

ラオス現地代表 田川 友康

本年4月1日からJMASとしては初めて、日ASEAN統合基金(JAIF; Japan-Asean Integration Fund)を使用して、ラオス南部のアッタプー県で不発弾処理事業を開始しました。JAIFは、2015年までのASEANの域内格差是正を中心に統合を進めようとするASEANの努力を支援するため、2005年12月に開催された日ASEAN首脳会議において日本が支援することを表明し、2006年3月、本基金が設置されたものです。

Japan funds UXO clearance in Attapeu

Periyasath Thammavongsa

The government of Japan yesterday agreed to provide a grant of more than 4.1 billion yen (US\$325,000) to support the Lao National Unexploded Ordnance programme (UXO Lao) in Attapeu province. The agreement was signed by Director of UXO Lao, Mr Boatsone Savasath, and Representative of Japan Mine Action Service (JMAS), Mr Tomoyasu Tagawa, in Vientiane.

The Japanese government, through the Japan-Asean Integration Fund (JAIF), is providing funding to JMAS to support UXO Lao in Attapeu province from April this year.



Mr Boatsone Savasath (right) and Mr Tomoyasu Tagawa shake hands after signing the grant agreement in Vientiane yesterday. Their continuous support of has been conducting a

現地英字新聞に掲載された調印式

ベトナム、カンボジアと接するこの地域はベトナム戦争時にホーチミンルートとして利用された地域で、ラオスでも有数の不発弾汚染地域となっています。また、カンボジア・ラオス・ベトナムが接するこの地域は「CLV 開発の三角地帯」と称する開発が遅れている地域です。それでも現在は、アッタプーからベトナム国境に向かって立派な舗装道路が整備され、日本企業の開発の動きも出てきており、今後の開発が進むことが期待されています。

JMAS ラオスでは「日本の顔の見える支援」を期待する日本政府の要請を受け、新たな支援を検討してきました。紆余曲折はあったものの、ラオス政府がアッタプーでの支援を強く期待したこともあり、2010年1月下旬までに ASEAN 関係国の承認を取り付け、2月10日にラオス政府との調印に漕ぎつけました。



アッタプー県

JMASは以前シェンクワンで勤務した経験を有する中條専門家を配置し、2011年3月末までの1年間の予定でアッタプー県の不発弾処理のための技術移譲、現場での処理のアドバイス及び管理支援等を実施します。

ラオス・スタッフ紹介

ビエンチャン事務所



田川代表(i)



森川総務・経理主任



富樫経理主任

シェンクワン指揮所



吉田専門家(Ord)



刈屋専門家(Ord)

アッタプー指揮所



中條専門家(Ord)

パキスタン報

カカライ村の水道施設の状況

アフガニスタン兼パキスタン現地代表 笥 隆保

カカライ村での水道施設の完成から4ヶ月が経ちました。利用状況の確認のため、学校の近くに建てられたサブタンクの様子を見てきました。

サブタンクが建てられる前までは、学校の生徒が交代で水源まで水汲みに行っていましたが、現在は学校の校庭までパイプが敷設され、必要なときにサブタンクのバブルを開けて、学校まで送水します。学校の先生も子供達が授業に専念できると感謝していました。



サブタンク

パキスタン・スタッフ紹介



笥代表(兼)



櫻井経理主任



水を汲みに来た子供達



サブタンクを確認する笥代表 3

アフガニスタン報

バグラム地雷原における地雷処理活動

前専門家 別所 利通

2月20日(土)早朝、カブール事務所を出発し、現在 JMAS が処理活動中のバグラム地雷原に行って来ました。今回のバグラム進出の目的は、現地での地雷処理作業を確認・指導するとともに、在アフガニスタン日本大使館の担当書記官を御案内し、地雷処理の第一線を視察して頂くことにありました。



地雷を探知する処理員

担当書記官は、地雷処理員達がアフガニスタン復興のため、長時間にわたり窮屈な姿勢で、安全に留意しつつ、黙々と地雷処理活動に従事している姿に感心していました。当日は、発見された対人地雷(PMN、PMN-2)3発を爆破処理し、地雷処理活動を無事、終了しました。



地雷探知要領の説明



地雷を探知する処理員

アフガニスタン・スタッフ紹介



寛代表(E)



横山総務・経理主任



内之浦専門家(Avn)



別所前専門家(FA)

アンゴラ報

毎月 25 日に給与を支給

アンゴラ現地代表 土井 義尚

毎月25日は、隊員にとって待望の給与支給日です。INAD(アンゴラ国立地雷除去院)からの出向隊員に対しては、サブシティ(補助金)として支払われます。支給は銀行振り込みではなく一人一人、代表との面談があってその後、現金で渡されます。給与支給の遅配が多いアンゴラ社会にあって遅れずに現金で受領できることは、彼らにとっては有難いことです。特に1月は大半が遅配のため、なおさらです。以下支給要領です。

呼び出されてテーブルの位置につき、先ず代表からその月の勤務状況について指導等を受け、日本国民が期待している模範的なアンゴラ国民となり、アンゴラ社会のために尽力する旨述べて、支給現金を確認、受領証にサインしています。

退席の際には資金の提供を受けている日本国民に感謝の意を含め、テーブル上の日本国旗に向かってお礼の挨拶をして終了です。



受領証にサイン



奮闘する対人地雷除去機



ベースに遊びに来た子供達

アンゴラ・スタッフ紹介



土井代表(Ord)



福専門家(Tran)



栗栖専門家(E)



近藤企画・経理主任

海外で活動するスタッフを紹介します

カンボジア地雷処理専門家 高山 良二(たかやま りょうじ) 63



プロフィール:愛媛県出身、昭和41年陸上自衛隊入隊、第7施設群(京都)等で勤務し、平成14年松山駐屯地業務隊 援護室長を最後に定年退官(平成4~5年第1次カンボジア派遣施設大隊第1係主任)

私は、2002年5月に退官して3日目には日本を離れ、カンボジアに向かい、早いものでもう8年になります。活動は2002年7月1日からカンボジアの東部ベトナムとの国境に近いプレイヴェン州で不発弾処理からスタート、現在では不発弾処理活動が3州で、各州に日本人専門家各1名を配置し、カンボジア地雷対策センター(CMAC)と共同して活動しています。一方、地雷処理活動は、カンボジアの北西部バタンバン州で、住民参加型地雷処理(CBD)と機械力による地雷処理および地域復興活動(SVC)を実施しています。



村の子供たち

私はCBD活動の主任としてタイとの国境に位置するタサエン地区という小さな村で、もう一人の日本人高田善之さんと共に村民99名を指導しています。朝6時半宿舎を出て地雷原に向かい、33名編成の3個小隊の現場を巡回します。最大の指導着眼は、事故を未然に防ぐための確認です。それは「規律」と「技術」です。特に規律面の見過ごし、妥協は大きな事故に繋がります。



現場指

2007年1月19日に対戦車地雷の爆発事故で7名の地雷探知員を失うという悲しい事故を起こしてしまいました。その原因は、正に「規律」に対する指導を見過ごしたのが大きな原因だと思っています。以来、特に規律を維持する対策として毎年リフレッシュ訓練を実施して、モチベーションを初心に戻すようにしています。そして完璧な信頼関係を築きながら活動しています。

カンボジア不発弾処理専門家 西城 真人(さいじょう まこと) 60



プロフィール:北海道出身、昭和43年陸上自衛隊入隊、第27普通科連隊(釧路)本部管理中隊において施設作業小隊分隊長・小隊陸曹、中隊付准尉等を務め、平成15年定年退官

皆さん、はじめまして。私はカンボジア・カンダール州で不発弾処理を担当しています。早いものでカンボジアに来て六年も過ぎてしまいました。時々どうしてこんなに長くなったのかな~と思っていますが、答えは簡単。「カンボジアにハマッてしまった」のです。それは、言葉で表すことはできませんが、肌で感じるのです。日本がどうの昔に失ったものがカンボジアには有るように。それが、カンボジアの魅力と云うものでしょうか。よく、「クメールの微笑み」と云いますが、それは私は「子供達の笑顔」だと思っています。これもカンボジアの魅力の一つでしょうか。



今、カンボジアは乾季から雨季への変わり目で、もう暑いなの。正午過ぎに気温を測ると、三分もしないうちに四十八度以上になってしまいます。そんな暑さの中、プロテクター・バイザーを着けて(約4kg)、稲刈りの終わった田圃の中や畦道を歩いて、一個一個不発弾を回収して歩くのです。多い時には一日一万歩以上も...。体からは汗が噴き出しますが、この「一発の不発弾が子供の命を」と思うと暑いとは言ってられません。

現地スタッフが「暑い暑い」と云っていると、私は「トロチアナツ」(とても涼しい)と大声を出しながら一緒に不発弾の回収に走りまわっています

私は、一発でも多くの不発弾を回収して、子供たちの命を守ってやりたい。そんな思いでいっぱいです。

この思いは、日本で私たちを支援してくれる皆さんと同じだと思います。私は、これからも日本の皆さんの気持ちを現地で具現して行きたいと思っておりますので、今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。



小学校でプロジェクターを使って危険回避教

愛媛支部

3月30日(火)松山市に於いて、カンボジア王国バタンバン州知事プラチャン閣下及び加戸愛媛県知事出席のもと、「愛媛県・バタンバン州友好交流協会設立記念パーティー」が盛大に開催され、県下から総勢約200名の参加者があり、JMAS 愛媛支部も、秀野支部長以下支部メンバーが全面的に支援を行いました。



山梨支部

4月11日(日)甲府市において、ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区(神奈川・山梨・伊豆大島)の年次大会が開催され、野中理事長が大会式典に参列するとともに、JMAS山梨支部・本部合同で、写真パネル、地雷模型等の展示を実施しました。



JMAS 本部及び事務局

2月11~14日、JMAS今尾顧問が、カンボジア・バタンバン州の住民参加型地雷処理現場や寄贈した道路を視察するとともに村民と交流しました。

2月16~22日、市ヶ谷会館において、自衛隊OB主催による年賀状、書画等の展示会が行われ、たくさんの方々が来場されました。作品の販売も行われ全額を御寄附頂きました。

4月1日、カンボジア、バタンバンのプラ・チャン(PRAH Chann)州知事がJMAS事務局を訪問されました。JMASの先崎会長がお迎えし、歓迎の挨拶、JMAS活動のブリーフィング、記念品交換などを行い和やかに歓談されました。

4月4日、都内において「地雷撲滅チャリティ・ノルディックウォーキング」が実施され、JMASからは、会長以下6名が参加しました。ノルディックウォーキングクラブ関東会参加の皆様から御寄附を頂きました。



【お知らせ】

◇認定期間の延長

JMASは2008年5月20日に国税庁長官より「認定特定非営利活動法人」の認定を受けており、引き続き、本年の2月12日にも認定を受けました。これにより認定有効期間は、平成27年5月まで、5年間延長されました。(全国約4万のNPOのうち認定NPOは130余りです)

今年4月の税制改正により、寄附金控除の適用下限額(足切り金額)が現行の5,000円から2,000円へ引き下げられ、年間2,000円超で所得税の寄附金控除が利用可能になりました。

【人事往来】

【役職】	【日付】	【新任】	【退任】
カンボジア			
現地統括代表	4/1	渡邊 榮樹	古賀 英松
SVC専門家	4/1	高木 茂	大本 俊志
ラオス			
アッパー専門家	4/1	中條 宏	
アッパー経理主任	4/1	富樫 秀樹	
シェクワン専門家	5/21	中塩 孝	吉田 盛秀
アフガニスタン			
地雷処理専門家	4/9	内之浦 法昭	別所 利通

【ご支援のお願い】

◇インターネットからの寄附・募金

JMASのホームページに、クレジットカード&ジャパネット銀行から寄附ができる『オンライン寄附サイト』、クリックするだけで募金ができる『募金箱』が開設されました。ご支援をよろしくお願いいたします。

◇書き損じ葉書寄附のお願い

書き損じ葉書は、切手に換えて現地に文房具を送るための輸送費や通信費として活用しています。ご支援をお願いいたします。

【ご入会・ご寄附のご案内】

正会員(個人): 年会費1万円
 正会員(法人): 年会費5万円
 賛助会員: 千円以上
 寄附: 制限はございません

郵便口座: 00170-1-13709

口座名: 特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会

認定特定非営利活動法人

日本地雷処理を支援する会

(国税庁長官認定: 課法11-43号)

会長 先崎 一 / 理事長 野中 光男

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3-18 エムズビル5階

TEL: 03-5228-7820

E-mail: jmas-hq@jmas-ngo.jp

FAX: 03-5228-7821

URL: http://www.jmas-ngo.jp

平素からJMASをご支援いただき、誠に有難うございます。JMASは皆様のご支援に支えられております。